

授業評価アンケート結果(2008 秋)

担当者：杉本憲彦

科目名：物理学 II(実験を含む)「気象物理学概論」

実施時期：秋学期最終講義日(1/8,1/19)

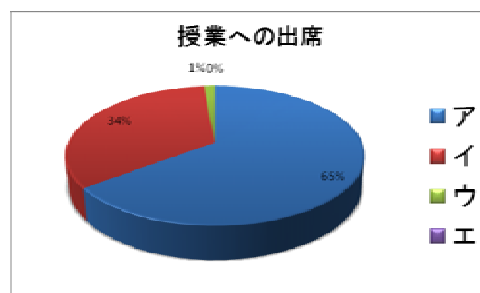
科目設置：日吉

履修者数：81 名

回収数：68 名

1. 授業への出席

ア 全部出席した	44 人
イ ほとんど出席した(80%程度)	23 人
ウ あまり出席しなかった(50%程度)	1 人
エ ほとんど出席しなかった	0 人



2. 授業について

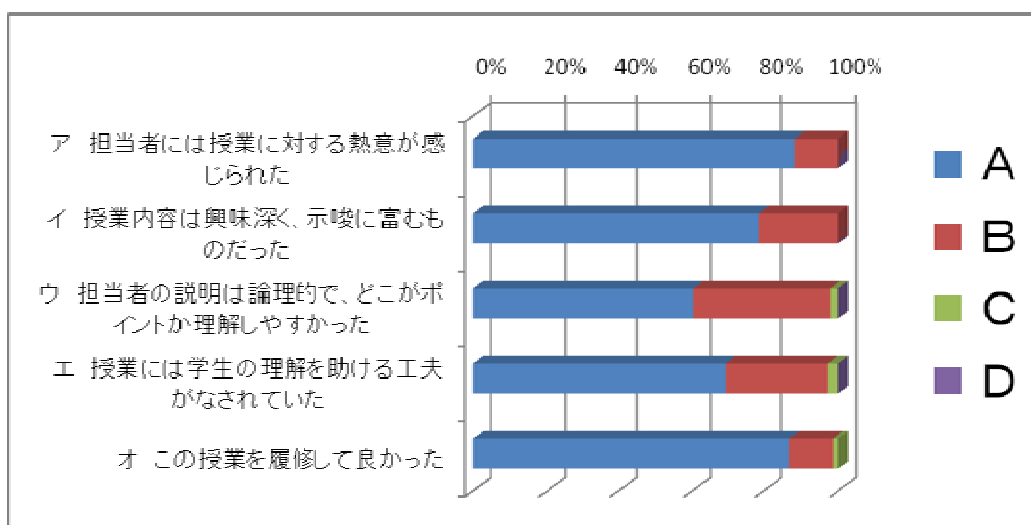
A = そう思う

B = どちらかといえばそう思う

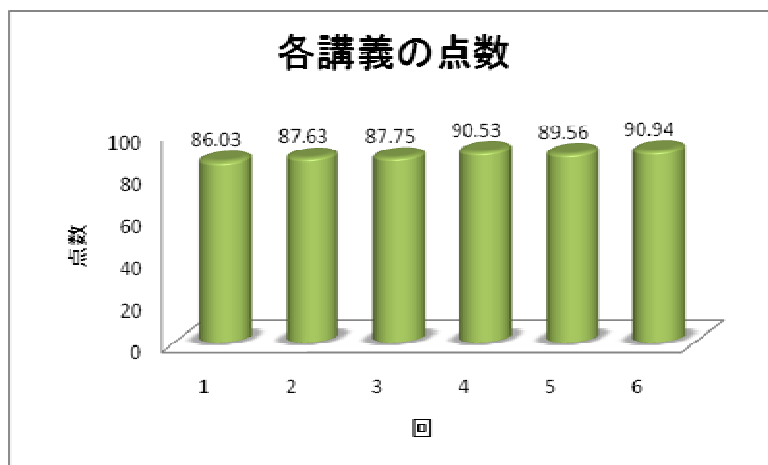
C = どちらかといえばそう思わない

D = そう思わない

	A	B	C	D
ア 担当者には授業に対する熱意が感じられた	60	8	0	0
イ 授業内容は興味深く、示唆に富むものだった	53.5	14.5	0	0
ウ 担当者の説明は論理的で、どこがポイントか理解しやすかった	41	25.5	1.5	0
エ 授業には学生の理解を助ける工夫がなされていた	47	19	2	0
オ この授業を履修して良かった	59	8	1	0



3. 各回の講義内容について(100点満点)	平均点
第1回「大気の成り立ち」 光とオゾンホール	86.0
第2回「大気の運動」 大気力学入門	87.6
第3回「雲と降水」 雨の降る仕組み	87.8
第4回「さまざまな気象」 日本の気象と流体力学	90.5
第5回「明日の天気」 天気予報の限界とカオス	89.6
第6回「気候の変動」 地球温暖化と現代物理学	90.9



4. 自由記述(代表的なもの)

- 映像(動画や画像)がたくさんありわかりやすかった(6人)
- 履修してよかった(7人)、興味を持てた(6人)、有意義だった(3人)
- テーマが(普通の物理よりも)身近で面白い(6人)、環境や現代技術などバラエティ豊か
- 説明がよかった(3人)、熱意が伝わった(2人)、授業テーマが明確でよい
- 地球温暖化について、TVなどの情報と異なる専門的な視点から、まとめて教えてもらえたことがうれしい。コンピュータシミュレーションは気象に欠かせない
- 理解は難しかったけど、高校物理、地学を超えた内容が多い授業で楽しかった。
- もっと相対性理論(3人)、量子力学(2人)、環境問題(1人)、物理(1人)の話が聞きたい
- 相対性理論(2人)、量子力学(1人)、カオス(1人)、実験(1人)が難しかった
- 前期の内容の方が自分的には面白かった。切れ目がないから集中力が切れる。時々明るくして、黒板の説明を入れるといいかもしれない。

5. 講評

講義全般に関して、概ね好評であった。気象が前期に比べてより身近なテーマであったことと、講義に対する慣れ(教員・学生ともに)が影響しているのではないだろうか。後期は特に実験と講義の間に分野の隔たりがあったので、講義内容に実験部分の説明を加えたが、この部分を難しいと感じる学生がいたようだ。次年度は講義と実験の関連性により配慮したい。受講者にとって、気象や地球環境を少しでも考える機会になればと思う。